

素晴らしきミツバチの世界

養蜂とは、ミツバチの素晴らしさは。永年蜂を愛し続けてきた
久世佳弘氏が語る、素晴らしきミツバチの世界!!

秋のミツバチ

春から夏にかけて一生懸命蜜集めをしていたミツバチたちも、秋には冬を越すための準備にとりかかります。養蜂家の人たちも9月に入るとそろそろこの冬越しの仕度を始めます。

秋になるとミツバチたちは少しずつ数が減ってきます。ミツバチたちはお互いの体温で寒い冬を乗り切るので、数の減少に合わせて人間が巣板の数を調整してあげなければなりません。ミツバチの数が少ない時は、巣門を狭くして風を防ぐなど、特に注意して巣内の温度を保つような工夫が必要です。

冬の食べ物？

9月から10月にかけて越冬用のエサを与えておくことが必要となります。主に砂糖水を与えているところが多いようですが、目安は1kgの砂糖を約1リットルのお湯に溶かしたものを冷やしてから使用します。毎日これだけの量がなくなっていくわけですから、この時期のミツバ

チたちの越冬準備はたいへんなものですね。

ミツバチの生存曲線

秋口になってミツバチの数がだんだん減ってくるのは、約40日前後といわれる夏場の働き蜂の寿命に対して、温度変化によつて女王蜂の産卵が少なくなっていくことが原因です。

ふつう野生の生き物は幼いものほど死亡率が高いのですが、ミツバチは多産にもかかわらず、幼虫期や若バチの死亡率がとて低いです。働き蜂たちは、蜜を集めるようになってから少しずつ姿を消していきます。

こうした緩やかな生存曲線は、人間とミツバチだけだといわれています。

外部からの影響を受けにくくするため、人間は文明で、ミツバチは生きているシステムの中で、内部環境を維持する方法を身につけたと考えられますね。



株式会社札幌山本養蜂園社長

久世佳弘

久世佳弘 プロフィール
昭和14年 北海道常呂町生まれ。
昭和47年 山本養蜂園札幌営業所勤務
平成6年 札幌山本養蜂園として独立
札幌山本養蜂園
TEL 011-873-3838
住所 札幌市白石区北郷2条丁目6の13
事業内容 ハチミツ関連商品・養蜂器具卸販売

